

CONTENTS

- 1 ごあいさつ 細野茂春
- 2 ILCOR の最近の流れ
- 3 これからの NCPR の活動について
- 4 インストラクターの質向上 WG 報告
- 7 新フォローアップコース WG 報告
- 10 事務局からのお知らせ
- 13 〈NCPR 講習会開催日より〉岡山県新生児蘇生法普及事業推進協議会
- 15 〈NCPR 講習会開催日より〉千葉県周産期新生児研究会

ごあいさつ

細野 茂春

日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法委員会委員長
自治医科大学附属さいたま医療センター 周産期科新生児部門 教授



NCPR事業は今年で12年目を迎え、昨年12月末でインストラクターを含め有効認定者数は76,289名となり、事業開始時に算定した75,000人に到達することができました。これも本事業をご理解頂き講習会を受講されている周産期医療関係者ならびに本事業を支えて下さっているインストラクターの皆様のおかげと感謝申し上げます。

本号ではまず諫山哲哉先生にILCORの最近の流れについて解説いただきます。今までのガイドライン作成と異なるのは継続的エビデンス評価の導入です。これにより評価が終わった項目から順次論文文化して1年毎にCoSTR集として公表されます。日本蘇生協議会（JRC）ではCoSTR集を翻訳し、内容について解釈を加え、ガイドライン変更の必要性についてJRCのホームページで公表することにしました。新生児領域においても今年中に複数の論文が公表される予定がありますので、新生児蘇生法委員会で翻訳し解釈を加えホームページで公表していきます。しかし一方でガイドラインの頻繁な変更によって生じる混乱を考慮してこれまで通りJRCガイドラインの発刊は5年毎に行うため、

それに基づいて作成されている新生児蘇生法テキストの改訂は2021年春頃の予定です。

次に杉浦崇浩先生には昨年開催された新生児蘇生法に関するグループワークで議論された内容についてご報告いただきます。そこで議論されたテーマのうち早急に対応が必要と考えた2つのテーマについてワーキンググループを立ち上げ、「インストラクターの質向上WG」について荒堀仁美先生に、「新フォローアップコースWG」について水本洋先生にそれぞれ進捗報告をしていただきます。現在インストラクターを対象としたフォローアップコースの一部はWGの結果を踏まえてスキルアップコース体験型フォローアップコースとして開催していますので、是非多くのインストラクターにご参加いただき、スキルアップコースの普及へのご協力をお願いいたします。

最後にご希望があったNCPRオリジナルスクラブとピンバッジの販売についてお知らせいたします。スクラブは機能性に優れ心地も良い物に仕上がっていますので日常診療の場や講習会の際に御着用いただければ幸いです。

ILCOR (International Liaison Committee on Resuscitation) の最近の流れ

諫山 哲哉

国立成育医療研究センター 新生児科

ILCORとは

国際蘇生連絡委員会 (ILCOR) は、世界的に心肺蘇生法やその研究の促進・教育・普及を行うことを目的に1992年に設立され、現在、世界の7つの蘇生協議会が加盟しています。大人から小児まで全ての人の蘇生法を対象とし、新生児蘇生法 (NLS) の他、成人の1次救命処置 (BLS)、2次救命処置 (ACLS)、小児1次救命処置 (PLS)、教育と普及 (EIT)、応急手当 (FA) など計6グループがあります。

新生児蘇生法グループ

ILCORの新生児グループ (NLS) は、世界中から集まった約60人の新生児蘇生に関連する様々な専門家からなり、現在、日本からは、細野茂春* (自治医科大学附属さいたま医療センター)、田村正徳 (埼玉医科大学総合医療センター)、杉浦崇浩 (豊橋市民病院)、と私 (諫山哲哉*) がメンバーとして入っており、 (*: タスクフォース) 毎月1回タスクフォース電話会議、毎年3回直接会議 (1回はタスクフォースのみ) を通して、ガイドライン作成を行っています。

ILCORガイドラインの作成と最近の流れ

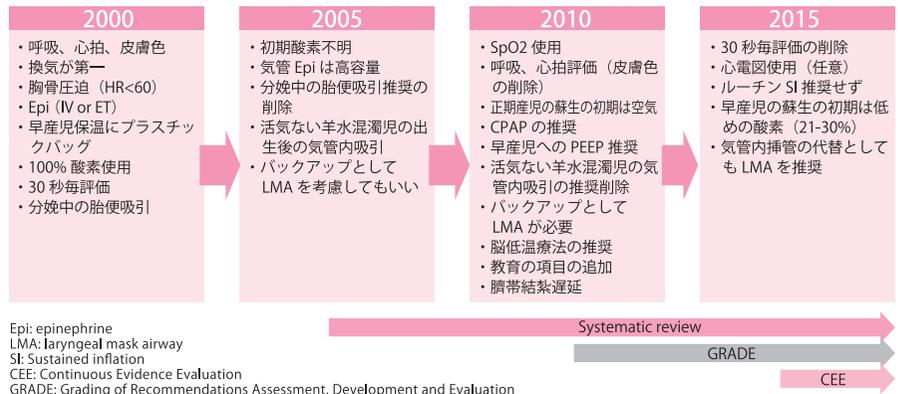
ILCORは、エビデンスとコンセンサスに基づき、2000年以降5年毎に、世界共通の国際蘇生ガイドライン (CoSTR: Consensus on Science and Treatment Recommendations) を作成してきました。これを元に地域

毎の実情を加味したガイドラインが作成され、新生児では、北米のNRP、欧州のERC、日本のNCPRなどのガイドラインがあり、5年毎に内容を加えて、ガイドラインの作成方法自体も進歩してきました (図)。2010年以降、GRADE (Grading of Recommendations Assessment, Development and Evaluation) と呼ばれる系統的レビューやガイドライン作成の世界標準の手法が導入されました (Bmj. 2008;336 (7650):924-926)。2015年以降は、継続的エビデンス評価 (CEE: Continuous Evidence Evaluation) とよばれるシステムが導入されました。

CEEは、世界中から出版される蘇生関連論文を常に監視し、推奨を変えうる重要な研究が出た時に、速やかにガイドライン改定を行うのが目的となります。2015年以前はILCOR NLSメンバーを中心に系統的レビューを行っていましたが、2015年以降、系統的レビューの専門家を中心となり、NLSメンバーと共同してレビューを行っています。既に、成人と小児のガイドラインの一部更新が発表されましたが、新生児分野は入っていません (Circulation. 2017;136(23):e424-e440)。

つい最近、NLSから、初期酸素濃度に関する系統的レビュー2本が出版され、2019年にはILCOR新生児ガイドラインの一部更新が行われる予定です (Welsford M, et al. Pediatrics. 2018)。

ILCOR 新生児蘇生ガイドライン 2000-2015



これからの NCPR の活動について ～より良い NCPR 講習会を目指して～

杉浦 崇浩

豊橋市民病院 小児科（新生児）

新生児蘇生法（NCPR）普及事業が開始されてから既に有資格者は75,000人、インストラクターは5,000人を超えました。このNCPRの質を維持・向上するため、主に全国のトレーニングサイトを中心としたベテランインストラクター（※クオリティマネージャー(QM)）を対象に、NCPR事業全体、トレーニングサイト、QM、インストラクター養成（I）・フォローアップ（F）コース等に関してアンケートを実施しました。このアンケート結果をもとに2018年3月17日、合計92名の新生児蘇生法委員・トレーニングサイト長・クオリティマネージャーが全国から集まり下記の5つのテーマについてグループワークを行いました。

1. インストラクターの質の向上の手法

インストラクターとしての活動実績や満たすべき知識・手技・態度に難点のあるインストラクターも散見される。このインストラクターの質のばらつきを改善する。

2. 現行有資格者コース(A・B・Sコース)の向上

より良い新生児予後の改善を目指し受講者のニーズが多様化（一次～三次施設、院外分娩、NICU内・新生児室内の急変）する中、そのニーズに特化したコース・教材の提供が望まれる。現行のA・Bコース、及びSコースの改善、および特殊な環境下についての教材等を開発する。

3. 新生児蘇生研究の促進

全国規模で普及したNCPRそのものが新生児の予後が改善した確証は存在しない。また蘇生に関する同研究も少ない。これらの新生児蘇生研究を促進する。

4. トレーニングサイトの充実・サポートに関連する方略

現在トレーニングサイトの労働的負担には格差が見え隠れする。また状況によってはトレーニングサイトの恩恵を受けにくい地域が存在する。これらの格差を是正する。

5. 新しいインストラクター対象フォローアップコースの設計

インストラクターの質の向上のため、Fコースは必須と考えられる。今後インストラクターの質の向上のために具体的に必要と考えられるコンテンツ、及びFコースを開発する。

これらのグループワークでは活発な議論が展開され、各グループより今後のNCPRの向上について貴重・かつ具体的な提言がなされました。その後、新生児蘇生法委員会の議論を経て

1. 望ましいインストラクターの行動・態度の明確な記述と評価項目リストの作成
2. インストラクター活動の提供の場としての新Fコースの創設

の2つのテーマを今回選択し、各テーマに対しワーキンググループを設立し、その内容を実現化することになりました。次ページより2つのワーキンググループ（インストラクターの質向上ワーキンググループ・新フォローアップコースワーキンググループ）の活動についてご紹介します。

インストラクターの質向上 ワーキンググループ報告

荒堀 仁美

大阪大学大学院医学系研究科小児科学

はじめに

現在、NCPRのインストラクターになるには、Aコース認定後、2回以上のインストラクター補助実績を積んだうえで、インストラクター養成コース（Iコース）を受講する必要があります。マニュアルや講義の中で、講習会開催方法、講義や実習のヒントの他、基本的なインストラクターの態度についても述べられていますが、実際にインストラクターになってからの活動は個人によりさまざまで、講習会をたくさん開催されている方だけではなく、インストラクター経験が少なく、知識や手技において十分とは言えない方もいるのが現状です。

このようなインストラクターの質のばらつきを改善するため、前述のグループワークのテーマの一つとして質向上の手法について議論され、望ましいインストラクターの行動・態度の明確な記述と評価項目リストを作成するためのワーキンググループが設立されました。何度も議論を重ねて評価項目を策定し、トライアルコースを開催しはじめたところです。今回はその経過についてご報告したいと思います。

インストラクターの質の向上の手法

グループワーク結果とワーキンググループの立ち上げ

【グループワーク結果】

Aグループ：「インストラクターの質とはなにか」から、インストラクターに求められる行動・態度を明確にし、評価項目を導入することでインストラクター養成コースでのQMの評価に客観性と具体性を与え、また受講者のフィードバックに役立てる。

Bグループ：資格取得や更新制度を厳格にしたうえで、講習会開催回数、合格率、受講者からの評価、他のインストラクターからの評価、自己研鑽ツールの点数などにより、格付け評価を導入する。

いずれのグループにおいても、「評価」がキーポイントであり、評価項目を設定することが喫緊の課題であると認識されました。



【ワーキンググループ立ち上げ】

グループワークのファシリテーター嶋岡先生、抄録作成担当木下先生を中心に、会議開催の利便性を考慮して、大阪・京都トレーニングサイトのアクティブQMを中心にワーキンググループメンバーが招集されました。

メンバーは（敬称略、順不同）、嶋岡鋼（国際医療福祉大学塩谷病院）、大橋敦（関西医科大学）、木下大介（京都第一赤十字病院）、山本正仁（長浜赤十字病院）、荒堀仁美です。7月8日に第1回会議を開催し、その後、頻繁にメール審議やSNSでの事務連絡を行い、新大阪での会議、Web会議（写真）を重ねて、評価基準を設定していきました。

インストラクター養成コース向け評価基準導入の目的

目的は以下の3つとしました。

1. 客観的な評価項目を立案し、Iコース受講者評価のばらつきを減少させ、Iコースにおける評価の標準化に役立てる。
2. 評価項目をIコース受講者に提示することで、講習、評価、合否判定の公正性（フェアネス）を保つ。
3. Iコース終了後、合否判定とともにIコース受講者への形成的評価をフィードバックし、その後の継続的な活動（A/Bコース、Sコースなどの講習会開催）や、継続学習（フォローアップコース参加など）への動機づけとする。

インストラクターの質とはなにか

まず、ワーキングメンバーで合計105の理想のインストラクター像をあげ、それらを以下の項目に分類しました。その他、インストラクターとしての禁忌項目（100項目）や最低基準（60項目）についても検討しました。

基本的態度	受講者中心 公平性 自己研鑽 知識 手技 倫理
講習の方法方略（スキル）	1) 講義方略 2) 手技方略 3) シナリオ方略 4) コミュニケーション 5) 気づき支援
講習会の企画実行 マネージメント	1) 講習会実行 2) 環境調整
評価	1) 受講生評価 2) 自身の評価（メタ認知）
ビジョンの共有	1) 意義 2) 普及について

インストラクター養成コースにおける評価項目

各項目について、理想像、禁忌項目、最低基準を検討し、資格取得時に必要な項目に限定して、Iコースで実際にQMが評価しやすく、また受講者へのフィードバックがわかりやすくなるよう、評価表とレーダーチャート、コメント欄を作成しました。詳細は、表とチャートを参照してください（P6参照）。

<評価項目>

評価は、領域A：インストラクターとしての態度、領域B：手技トレーニングの指導、領域C：シナリオトレーニングの指導の3領域に分け、各4項目、合計12項目について行います。

<評価の方法>

各項目の評価は、努力要：最低限の能力要件に達していない、できている：現段階で最低限の能力要件はクリアしている、優秀：特に優れたやり方で指導を行っている、の3段階で評価を行います。実際に、フィードバックシートのチャートに記載する場合は、できていると優秀の間など、各段階の中間の評価としてもよいと考えます。

NCPA インストラクターコース評価表

受講者 _____ 評価者 _____

領域 A インストラクターとしての望ましい態度

1) 学習者の背景、立場や希望を踏まえ 指導の個別化、効率化に努める	能力が必要	できている	優秀
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) すべての学習者に対して公正である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3) 安全な学習の場を作り学習を促進する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4) 講習中の倫理的正しさを保つ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

領域 B 手技トレーニングの指導

1) デモンストレーションを正確に行う	能力が必要	できている	優秀
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) 学習者の手技を適切に観察・評価する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3) 学習者に合わせた方法で手技完成に導く	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4) フィードバックのタイミングを適切に行う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

領域 C シナリオトレーニングの指導

1) 適切な情報提示を行う	能力が必要	できている	優秀
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) 学習者の行動を適切に観察・評価する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3) ふりかえりを効果的に行う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4) 補助教材を適切に使用する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

NCPA インストラクター養成コース フィードバックシート

受講者氏名 _____ さん 受講年月日 ____年 ____月 ____日

評価コメント _____

評価者氏名 _____

トライアルインストラクター養成コース

10月14日の大阪Aトレーニングサイト、11月11日の埼玉トレーニングサイトにて、評価表とチャートを用いたトライアルコースを開催いたしました。経験豊富なQM陣で臨みましたが、初回ということもあり大変な面もありました。しかし、QMに求められる視点と、受講者が目指すものが言語化され明確になり、特にレーダーチャートは、どの項目が強みで、今後、何に気を付けてインストラクションを行えばよいのか、視覚的にとてもわかりやすいと好評でした。QMもともに学び、また責任感も生まれるということを実感できたという意見もありました。さらに、講習会終了時にインストラクターとしての知識や技術が不十分な場合、以前は担当QMの主観的な意見をもとに判断されていましたが、どのQMが見てもわかる基準での判断ができました。なお、一人の受講者に対して

複数のQMが行った評価はほぼ一致していました。受講者からは、手書きのコメントがとても嬉しかった、との感想を頂きました。

今後の課題

今回は、1コースの評価基準ということで、講習会の企画実行マネジメントやビジョンの共有の項目を設定しませんでした。しかしながら、インストラクターの質を考える上で必須と思われるので、WGでさらに議論を深めていきたいと思えます。現段階での評価基準は、客観的な評価ができる、フィードバックがしやすいなど、良い点がたくさんありますが、導入初期のQMの負担増が懸念されます。今後もトライアルコースを開催しながら改良を重ねて、本格的な導入ができるようにしたいと考えております。今後とも、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

新フォローアップコース ワーキンググループ報告

水本 洋

公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院小児科

フォローアップコース（Fコース）とは

Fコースはインストラクター認定者を対象に、主に全国21のトレーニングサイトで開催されています。インストラクションの質の維持を目的とし、NCPR講習会における指導法の在り方、およびガイドライン改訂時・制度改革時などには最新の情報提供もコース内容に含まれます。インストラクター資格を維持するためにはFコースを受講していただくことが重要になります。

2015年春からA/Bコース認定者を対象としたスキルアップコース（Sコース）が公認講習会として開始されました。それに伴いFコースの内容にもSコースの説明が追加されました（表1）。

Fコースの目標は、「インストラクターが最新のNCPRの情報や有効な指導法を獲得し、次の日から自信を持ってA・B・Sコースを開催できるようになること」ですが、いくつか問題点がありました。

従来のFコースの問題点

Fコースに参加するインストラクターの背景がとにかく幅広いのです。医師・看護師・助産師など職種は様々ですし、「インストラクターの資格を取ってから数回補助として参加した程度で…、

他人に教えるどころか正直自分の知識も怪しいです」という方もいれば、「そうですね、この3年間でAコース30回、Bコースも20回主催しました」という達人もいます。当然参加者のFコースにおける達成目標もモチベーションも異なります。「最新のNCPRについて学びたい。いや、本音は認定期間が切れそうでした」「今後も定期的な講習会開催を控えており、より有効なインストラクションの方法を学びたい」など、そんな幅広いニーズに応え、参加者全員の技術向上が得られるような工夫が必要でした。

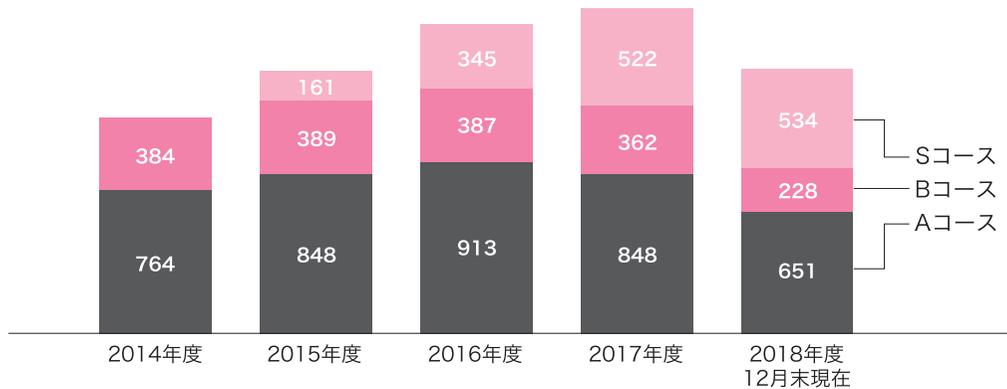
また2015年以降Fコースの内容にSコースの説明が織り込まれましたが、2017年になってもまだその開催数は少なく、資格更新を控えたA/Bコース認定者の数に応じ切れていませんでした（グラフ1）。Sコースで行われる「チェックシートを使用した振り返り」や、「シナリオ演習における系統的デブリーフィング」について、説明を聞いただけで自ら実践することはハードルが高かったのかもしれない。

これらの問題点が解決された新しいFコースの開発を目指し、2018年7月に第1回「新Fコースワーキンググループ会合」が新大阪の特別会議室にて開催されました。

表1 従来のFコースの内容

内容	形態	時間
最新のガイドラインとアルゴリズムの解説	講義	35分
NCPR事業の今後	講義	30分
Sコース基本手技指導の演習、シナリオ演習	演習	100分
NCPRのインストラクターとは	講義	30分

グラフ1 新生児蘇生法講習会 開催件数推移（年度別・コース別）



【ワーキンググループメンバー：敬称略】

岩永甲午郎（京都大学）、加藤文典（名古屋市立大学）、杉浦崇浩（豊橋市民病院）
 福原里恵（県立広島病院）、水本洋（北野病院）、安田真之（香川大学）、柳貴英（滋賀医科大学）

新Fコースの概要：FSコースとFAコース

「FSコース」は、ずばり「Sコースを実際に受講して体感する！」内容です。クオリティマネージャー（QM（トレーニングサイトを中心としたベテランインストラクター））がFコースの受講者であるインストラクターに対して講義、基本手技実習、シナリオ演習を指導します。そして記憶の新しいその日のうちに、公募のA/Bコース認定者に対してSコースを指導できるオプションがつきます（図1）。

前半のFコース中の実技・シナリオ演習の際には、後半にインストラクターをする予定の受講者が指導の練習をすることも可能です。そしてFコース終了後にはQMと振り返りをして疑問点を解消します。後半のSコースには公募された受講者に対して、実際にインストラクターとして指導をします。この時にはQMが必要に応じてサポートすることでSコースの質

は担保されますので、指導をするインストラクターもSコース受講者も安心して下さい（図2）。

「FAコース」は、基本的なファシリテーション技術や成人教育論を身に付け、やはりA/Bコースを開催できるようになることを目指します。NCPR公認コースでの指導経験が少ない方にお勧めです。QMのデモンストレーションを見た後に参加者が指導の演習をして、より効果的な指導法について振り返りとディスカッションを行います。そして後半には公募参加者に対してA/Bコースを提供できるオプションがつきます（図3）。

FAコースは現在ワーキンググループでさらなる検討を重ねているところです。

FSコーストライアルの結果

2018年9月29日に香川トレーニングサイト、12月23日に大阪Bトレーニングサイト、2019年1月20日に東京Aトレーニングサイト、1月26日に京都トレーニングサイトにてFSコーストライアルを行いました。受講者の感想は概ね良好で、80%以上の方が「明日からインストラクターとしてSコースを開催できる」という自信を持たれたようです。

Sコース受講が更新のために必須となりますので、多くのインストラクターのご参加をお願いいたします。

図1 FS コースの内容

	内容	形態	時間	備考
F コース	【QM が指導】 挨拶・導入 講義（S コースの意義に関する解説） S コース受講（実技） S コース受講（シナリオ） 受講後の振り返り・総括（講義）	講義 演習 演習	5 分 15 分 70 分 70 分 20 分	インストラクターが受講者として S コースの手技演習を体感シナリオを体感
	午後 S コースのための事前打合せ		60 分	
S コース	【F コース参加者が指導】 （受講者は事前公募） 挨拶・導入 講義 基本手技 シナリオ演習 総括	講義 演習 演習	10 分 20 分 70 分 70 分 10 分	F コース参加者のうち希望者がインストラクション実施 インスト希望者多数の場合は見学者として参加 QM のサポートあり（ご安心を）
	QM や見学者とともに振り返り			

図2

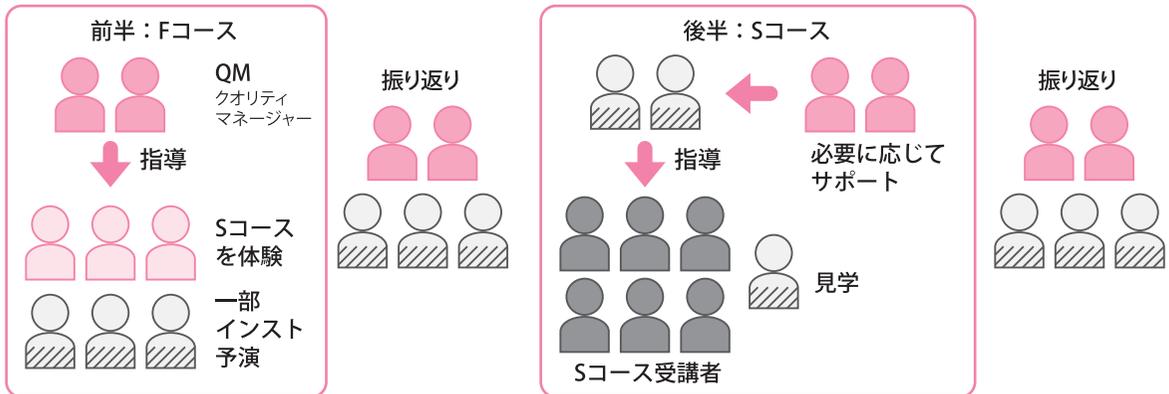


図3 FA コースの内容

	内容	形態	時間	備考
F コース	【QM が指導】 挨拶・導入 講義のポイント解説 講義の演習 デブリーフィング方の理論 基本手技の解説と実践 シナリオ演習の解説と実践	講義 演習 講義 演習 演習	5 分 25 分 30 分 40 分 85 分	スライドを数枚選択し講義 QM が見本を見せる、 またはお手本動画を供覧
	午後 A コースのための事前打合せ		60 分	
A コース	【F コース参加者が指導】 A コースプログラム （受講者は事前公募）		3 時間 または 5 時間	F コース参加者のうち希望者がインストラクション実施 インスト希望者多数の場合は見学者として参加 QM のサポートあり（ご安心を）
	QM や見学者とともに振り返り			

事務局からのお知らせ

更新のために必要な履修について

事務局にお問い合わせをいただく中で、最近多いご質問が「更新について」です。
認定を継続するためには、認定の種類と認定期間に応じた「更新のための履修」が必要となります。
今一度、ご自身の認定カードと下記を見ながら、更新方法について確認をしてみましょう。

※認定の種類は「I・J・A・B」の4種類です

※お持ちの認定期間が3年または5年によって必要な履修が異なります

認定の種類と認定期間を確認しましょう

認定の種類 「I・J・A・B」



認定期間の「自」と「至」からご確認ください

〈例〉自2016年・至2019年=3年

認定の種類 「I・J・A・B」



もしくは

認定番号のアルファベットに続く「数字2ケタ」

「有効期間」からご確認ください
〈例〉A-10⇒取得年2010年
有効期間2015年=5年

更新のために必要な履修

フォローアップコース・スキルアップコースの開催予定、eラーニングについては NCPR ホームページをご覧ください。

右頁参照

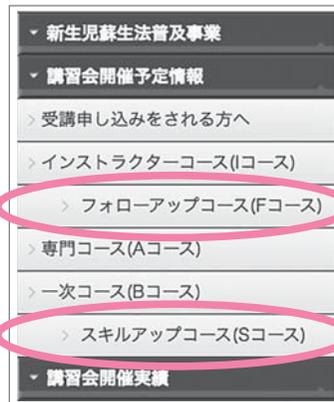
		お持ちの認定の種類		
		I インストラクターの方	J インストラクターの方	A・Bの方
お持ちの認定期間	3年	<p>認定期間内に</p> <p>右頁① フォローアップコースを受講してください</p> <p>+</p> <p>認定期間内に</p> <p>インストラクター (または) 開催責任者</p> <p>2回以上の実績</p>	<p>有効期限の1年前より</p> <p>右頁② スキルアップコース (または)</p> <p>認定期間内に</p> <p>右頁① フォローアップコースを受講してください</p>	<p>有効期限の1年前より</p> <p>右頁② スキルアップコースを受講してください</p>
	5年	<p>有効期限の3年前より</p> <p>右頁① フォローアップコース (または)</p> <p>有効期限の1年前より</p> <p>右頁③ eラーニングを受講してください</p> <p>+</p> <p>認定期間内に</p> <p>インストラクター (または) 開催責任者</p> <p>2回以上の実績</p>	<p>有効期限の1年前より</p> <p>右頁② スキルアップコース (または)</p> <p>右頁③ eラーニング (または)</p> <p>有効期限の3年前より</p> <p>右頁① フォローアップコースを受講してください</p>	<p>有効期限の1年前より</p> <p>右頁② スキルアップコース (または)</p> <p>右頁③ eラーニングを受講してください</p>

ホームページには最新情報が掲載されています

1 フォローアップコースの開催予定はこちらをご参照ください

※I・J 認定者

※ただしFコースは受講対象が
Iインストラクターに限られる
場合があります



2 スキルアップコース

※J・A・B 認定者

スキルアップコースの開催予定は地図または
カレンダー、または公募ありの講習会で検索
ができます。

※最新の開催予定は毎週月曜日に更新されます

- 一般公募ありの講習会
添付されている募集要項に従って
直接お申し込みください。
- 一般公募なしの講習会
ホームページ記載の連絡先担当者へ
お問い合わせください。

※スキルアップコースの開催実績のある施設は、ホーム
ページの「講習会開催状況」から都道府県別に検索
できます



3 e-ラーニングは、こちらをご覧ください

e-ラーニングについて

修了認定を取得されている方が、新生児蘇生法に関する臨床知識や基本手技等をいつでも自由に復習して頂けるよう「e-ラーニング講座」を開講しております。

- **対象者**
すでに「修了認定」を取得されている方は、どなたでもe-ラーニングを受講することができます。
- **受講するには**
このe-ラーニング講座を始めるには、「認定番号」「お名前」のほかに、「パスワード」の設定が必要です。詳しくは、e-ラーニングのTopページをご参照して下さい。
- **ご注意**
掲載されているコンテンツは予告なく変更することがありますので、予めご承知おき下さい。

※A/Bコース再受講での更新手続きはできません。再受講で合格後修了認定を申請されると、新しい認定番号・認定期間での発行となり旧認定は抹消となります。
※留学・妊娠等のやむを得ない事情で更新のための履修を行えない方は、更新手続き期間の延長を行うことも可能です。事務局までご相談ください。

事務局からのお知らせ

お待たせしました NCPRオリジナルグッズの販売を始めました!

多くのご要望にお応えして、NCPRオリジナルのスクラブとピンバッジの販売を
スタートしました。NCPRチームとして、職場の皆さんでお揃いにしてもらいたいですね!

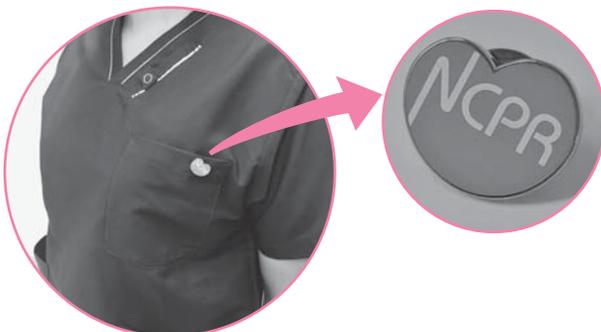
『NCPRオリジナル スクラブ』 【価格】1枚 6000円(税込)

カラーはネイビーとピンクの2色で、サイズは5種類(SS/S/M/L/LL)でご用意しました。
使いやすい機能的な胸ポケットを作り、背中と袖部分にはNCPRのロゴが入っています。
NCPR講習会のユニフォームとして着用するのもオススメです。



『NCPRオリジナル ピンバッジ』 【価格】1個 1000円(税込)

ピンバッジはかわいいNCPRロゴのデザイン。
普段のユニフォームにも簡単に取り付けることができます。



グッズの購入方法

サイズ・カラー・購入方法は
NCPR ホームページをご覧ください。

▼ 各種手続きのご案内



> NCPR オリジナルグッズ販売のご案内

※ご注文は各グッズ 5枚 / 個以上から
承っております

新生児蘇生法講習会 開催だより



2019
NCPR

今回は岡山県新生児蘇生法普及事業推進協議会と
千葉県周産期新生児研究会のご紹介です。

岡山県新生児蘇生法普及事業推進協議会

岡山県での取り組みと

岡山医療センターNCPR講習会の紹介

玉井 圭
影山 操
渡部 晋一
御牧 信義
鷲尾 洋介

国立病院機構岡山医療センター 新生児科
国立病院機構岡山医療センター 新生児科
倉敷中央病院 総合周産期母子医療センター
倉敷成人病センター 小児科
岡山大学病院 小児科

はじめに

「岡山県」といえば「電車や新幹線で通ったことはあるけど。。。｣という意見はよく耳にしますが、NCPR News Letter執筆という大役を預かり大変光栄に思います。岡山県では2010年から岡山県新生児蘇生法普及事業推進協議会の名のもと協力しながらNCPR講習会を開催しています。岡山県での取り組みと岡山医療センターでのNCPR講習会についてご紹介させていただきます。

岡山県新生児蘇生法普及事業推進協議会 について

岡山県では岡山県新生児蘇生法普及事業推進

協議会を設立しています。現在参加しているのは倉敷中央病院、倉敷成人病センター、岡山医療センター、岡山大学病院の4つの施設です。協議会設立の目的は、岡山県内で定期的にNCPR講習会を開催すること(≒受講希望者にとってもインストラクターにとってもNCPR講習会の機会を増やすこ



講習会にて

と)はもちろん、インストラクション内容の標準化、インストラクターの養成や質向上などです。

実際には、各施設が半年に1回のペースでNCPA講習会を開催しています【倉敷中央病院(2月、8月)、倉敷成人病センター(4月、10月)、岡山医療センター(6月、12月)、岡山大学病院(6月、12月)】。なお、各施設で開催される講習会の見学やインストラクターの派遣や教育なども行っており、医局や病院の垣根を越えて新生児蘇生法の普及に努めています。また、岡山県からの委託事業としてNCPA講習会を開催しているので、岡山県から補助金をもらっており受講料を安くすることが出来ています。

岡山医療センターのNCPA講習会

岡山医療センターでは2012年12月から定期的にNCPA講習会を開催しており、2018年12月に第13回目を開催したところです。新生児科医、NICU看護師だけではなく産科医もインストラクターとして参加しています。受講生は岡山市を中心として様々な施設から参加してくれています。なお、当院の特徴としては岡山医療センター附属岡山看護助産学校の助産学生も卒業前に当院開催のNCPA講習会を受講している点です。現場経験のある医療従事者に講習会を開催するのは勝手が違う大変な部分もありますが、我々インストラクターにとってもインストラクションの勉強になっています。



インストラクターの皆さん

アイスブレーキング

私事になりますが、インストラクターコースを受けた時にアイスブレーキングの重要性について教えて頂き大変感銘を受けました(笑いにうろさい大阪の病院だったと記憶しています)。受講生がリラックスしてスムーズに実習に入れるように、当院のインストラクターもアイスブレーキングを熱心に取り入れています。どうしても緊張しながらNCPAを受ける受講生が多いのが現状ですが、少しでも楽しみながら勉強してもらえると嬉しく思います。そして、インストラクター自身が楽しくなければ受講生も楽しくないのかなと感じています。我々が更に知識を深め楽しくNCPAを開催できれば、受講生も楽しく講習会を受けることができ、かつ新生児蘇生法の普及につながり、ひいては赤ちゃんの予後改善につながると信じています。



打ち上げ!

当院の課題

当院の課題は大きく二つあると思っています。一つ目は、Sコース(スキルアップコース)が開催できていないことです。多数のAコースプロバイダーから「Sコースを受けたい」という要望が出ているので、2019年6月の開催を準備中です。二つ目は、当院では産科病棟の助産師にインストラクターが少ないことです。助産師にも新生児蘇生に興味を持ってもらい、インストラクターとして一緒に活動していきたいと思っています。

千葉県における新生児蘇生法講習会(NCPR)の 千葉県周産期新生児研究会としての事業と 今後の方向性について

戸石 悟司 成田赤十字病院 新生児科

2007年度より全国で新生児蘇生法講習会(NCPR)の普及事業が、千葉県では2008年度より開始されて10年経過しました。千葉県では千葉県周産期新生児研究会(周産期新生児医療を担うスタッフが作り上げた「千葉県全体でみんな協力し合って頑張ろう」という趣旨で集まった研究会)が中心となりNCPR普及事業を行ってきました。千葉県にある全部で12施設ある周産期母子医療センターでのスタッフ全員の認定取得は完了しました。次に各地域のお産取り扱い施設の全スタッフに対する開催も100%まではいきませんが達成しました。

現在では、新人ならびに異動者の新規取得事業と資格更新事業が主な活動の中心になっていると考えます。

この資格更新事業ですが、2016年度より更新期間が5年→3年間となりました。また更新の方法も、e-learningでの更新からスキルアップコース(Sコース)受講による更新が必須へと移行処置が始まっています。そこで、千葉県周産期新生児研究会として次の事業を各周産期母子医療センターに対して提案しています。

各病院がやらなければいけないこととして

- ①Sコースのやり方を知ること。
- ②最低限として期限が切れる前に全スタッフにSコースを受講させ更新事業を推進すること。可能であれば三か月に一回のSコース開催を行うことでブラッシュアップすること。

- ③インストラクターの質的向上を図るためインストラクター対象フォローアップコース(Fコース)をもしくはJ資格者に受講させること。

そこではまずSコースのやり方を知るために、2015年10月にSコース開催のための指導者講習会を開催し、特に各周産期母子医療センターもしくは地域のお産取り扱い施設の教育係もしくは指導者の方々に集まっていただき、(学会認定の正式な講習会ではありませんでしたが、学会事務局の方にもご協力いただきました。)千葉大学医学部附属病院にて開催することができました。これにより、各周産期母子医療センター施設でのSコースの開催が徐々に始まりました。

次のステップとして、最初に触れたように更新事業推進のために2018年11月千葉大学医学部附属病院にてFコースが開催されました(次頁写真)。さらなるSコース事業推進のために各周産期母子医療センターだけではなく、地域のお産取り扱い施設の教育係もしくは指導者の方々に集まっていただき講習会開催のためのノウハウの指導もここで行うことができました。これにより、各地域のお産取り扱い施設でも医師だけでなく、看護師(もしくは助産師)さんがインストラクターとなりSコースを開催することで、更新が広く可能になり、みなさんのブラッシュアップにもつながることができると考えています。まだまだ千葉県全体の中でも地域格



差(人口の多い地域、少ない地域での普及率の差)がありますが、ひとつひとつ事業を推し進めていく考えです。

来年度は同様に2019年5月と11月千葉大学医学部附属病院にてFコース開催決定しています。可能であれば、FコースとSコースの同日同時開催を予定していきたくと考えています。

「各地域のことは各周産期母子医療センターが責任をもって対応する」を原則に今後とも普及事業ならびに更新事業を推し進めていく所存です。千葉県事業としては「アラフィフ(50歳前後?40歳後半?)は引退」を決定事項として、よりインストラクターに慣れている若い世代の方々にインストラクターや普及事業をお任せしていくという世代交代を進めていくことにより、さらなる普及がうまくいくのではないかと考えております。

追伸:この原稿を書いている当直中の真夜中に未受診妊婦の墜落分娩対応を救急隊の方と電話でやりとりしながら、やはり全員ではなくても救急救命士の方にもお伝えしなくてはと肝に銘じました。

最後に千葉県での「次の課題」をお伝えします。

【①:各地域の未受講者】

教育的な立場の方に専門(A)コースを取得していただき、インストラクター補助の訓練を行い、その後インストラクターになっていただき、各病院での定期的な開催+スキルアップをするように指導する。

【②:新人ならびに異動者】

毎年入職してくる、もしくは異動してくる新人対象者へは、各周産期母子医療センターのインストラクターが普及に努める。また、お産取り扱い施設での普及においてインストラクターの経験が少ない、もしくは自信がないインストラクターについては支援する。

【③:インストラクターの技術向上】

インストラクター数は千葉県としては充分と考え、千葉県周産期新生児研究会主催専門(A)コース開催は廃止、Fコースをインストラクターに受講させることを重点的に推奨する。

【④:救急隊への普及】

千葉県周産期新生児研究会としては現時点での開催決定はないが、勉強会は部分的に開催しており、成田地区ではまずは救急救命士の方全員の認定取得を行った。今後救急救命士の方がインストラクターを行い普及に努める方式を模索している。

